

## 第2回運営委員会議事録

日時:平成19年12月17日(月)

場所:名古屋大学医学部鶴友会館

出席者:主任研究者(浜島信之)、三上春夫、徳留信寛、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、橋本修二、江口英孝、玉腰暁子、田中英夫、松尾恵太郎、鈴木勇史、鈴木貞夫、喜多義邦、高嶋直敬、小笹晃太郎、三谷智子、尾崎悦子、新村英士、平佐田和代、上村浩一、日吉峰麗、武田英雄、川戸美由紀、池田佳名子、友田あき子、片瀬史朗、徳増諭、丸山英二、佐藤恵子、松井健志、谷村雅子、中央事務局(若井建志、内藤真理子、西尾和子、石田喜子、森田えみ、岡田理恵子、川合紗世、服部秀美、増田まゆ子) 計42名

### ○研究モニタリング委員交代手続きの不備について

・主任研究者より平成18年度末の研究モニタリング委員交代の際、日本疫学会の推薦を得ていなかったとの報告があり、次回再任時に日本疫学会の意見を聞くことで了承された。

### ○J-MICC 連合について

主任研究者よりJ-MICC連合に関する取り決めが示され、九州大学COEコホートをJ-MICC連合とすること、およびその経緯が説明された。

### ○新規コホート研究(大幸研究)の提案について

名古屋大学より、名古屋大学大幸医療センターにおいて2008年5月より新規にコホート研究を開始することが提案、説明された。

### ○第二次調査について

中央事務局より、第二次調査についての案が示された。討議の結果、質問票等の内容については今後協議を行うが、原則全員に調査を行うとの方針が承認された。

### ○コホート研究実施グループの研究計画書、手順書改定の際の手続きについて

中央事務局より、コホート研究実施グループ独自の研究内容であっても、説明文書または同意確認文書の変更を伴う場合には、中央事務局に事前に連絡し、中央事務局がJ-MICC研究全体にかかわるため検討が必要と判断した場合には、社会的諸問題検討委員会や研究モニタリング委員会に検討を依頼し、その検討にもとづいて主任研究者が承認、続いて所属機関および名古屋大学医学部の倫理審査委員会での審査を受けるとの提案がなされ、承認された。

### ○論文作成・学会発表の進捗状況について

中央事務局よりJ-MICC研究の研究概要、コントロール検体の保管管理についての論文発表の進捗状況が報告された。

#### ○横断研究について

主任研究者より遺伝子型および既存の検査データを用いた横断研究の手順について、2008年3月までに各グループの担当するテーマおよび多型の調整を行い、2008年8月末までに名古屋大学にて、各グループにおける研究開始当初の約500人分の検体を用いてDNA抽出を行い、2009年1月までに理化学研究所で遺伝子型決定を完了するという提案があり、討議の結果、了承された。

#### ○共著者のルールについて

主任研究者より、中央事務局に集められたデータおよび検体を用いた研究では、論文作成チーム3名まで、全研究実施グループから各1名まで、生体指標測定チームから1名まで、中央事務局1名まで、投稿時のJ-MICC研究主任研究者を共著者とするルールについて提案があり、討議の結果、了承された。

#### ○研究協力者が十分に集まらなかった場合の対応について

主任研究者より、特定のコーホート研究実施グループで研究協力者が十分に集まらなかった場合の対応についての問題提起がなされた。それに対し、社会的諸問題検討委員会およびコーホート研究実施グループより、まだベースライン調査対象者募集の期間が2年あるので、問題を協議するのは時期尚早ではないか、むしろ研究協力者の集まりの少ないところをどう増やすかを協議することが大切である、との意見が出された。中央事務局より追跡継続もしくは終了という協議はその都度行うことが提案され、了承された。

#### ○J-MICC 研究の組織のあり方について

主任研究者よりJ-MICC 研究の組織のあり方について問題提起がなされた。社会的諸問題検討委員会より、各委員会がうまく機能していない部分もあると思われるため、一度各委員会の必要性を検討すべきであるとの意見が出された。これに対し研究実施グループより、実際に各委員会の意見が有用であったこともあり、各委員会の役割は違うとの意見が出された。議論の結果、主任研究者より研究開始後5年目にもう一度各委員会の継続について協議するが、それまでは現行の体制で行うとの提案がなされ、了承された。